

海外投融資情報財団(JOI)について

海外投融資情報財団(JOI)は、我が国企業の海外直接投資の動向、海外におけるエネルギー・インフラ・資源開発、新興国の投資環境とビジネス機会等に関する情報を、当財団が主催するセミナー、調査研究、機関誌やウェブサイトを通して、会員企業および一般の皆さまに提供します。かかる活動を通して会員相互の情報の交流、ネットワーク拡大を図り、我が国企業の海外直接投資・国際ビジネスの促進に寄与します。

設立 1991年12月16日(大蔵大臣認可):国際協力銀行(当時、日本輸出入銀行)・商社・製造業企業、公益事業会社、金融機関等170社の出捐により設立
2010年11月1日(一般財団法人移行)

会員 本邦主要メーカー、建設・エンジニアリング会社、商社、通信・電力・ガス会社、金融機関、内外弁護士事務所、会計事務所、コンサルティング会社、各国大使館等 約200先(2018年11月現在)

会員制度(賛助会員)のご案内

当財団会員にご入会いただきますと、以下のサービスを受けることができます。

- (1) 当財団が主催、後援、協力するセミナー(年間60件程度)への無料招待
- (2) 会員と当財団によるセミナー共催
- (3) 機関誌「海外投融資」(隔月発行)の無料配布
- (4) 当財団ウェブサイト上、会員限定公開となっている、セミナー動画・配布資料、機関誌「海外投融資」記事、レポート、「国際金融機関便覧」等の閲覧
- (5) 受託調査(独自のネットワーク活用による情報収集を通じた報告書の作成)(有料)

海外投融資

Vol.27 No.6(通巻162号)
2018年11月15日発行

発行

一般財団法人 海外投融資情報財団

発行人

日塔 貴昭

〒102-0073

東京都千代田区九段北二丁目
3番6号 九段北二丁目ビル

TEL. 03-5210-3311(代)

URL. www.joi.or.jp

制作協力

(株)エディポック

*本誌に掲載されている記事の内容や意見は、海外投融資情報財団の公式見解を示すものではありません。

●禁 無断転載

All rights reserved. No part of this magazine may be reproduced in any form or in any means without written permission from the publisher.
©Japan Institute for Overseas Investment Printed in Japan



九段だより

●旅は日常に在り(3) 水の道は自転車の道

先日、知人が私に「九段だよりの鉄道パナシ、いいですねえ」と言う。鉄道好きの筆者に対する固定観念がそう言わせたのだと思うが、この稿の主題は「日常生活の周辺にある旅」である。そここのところ自他ともに肝に銘じるべく、今回は鉄道と無縁の話にする。

私は人生の過半を武蔵野台地に暮らしてきた。小平市に生まれ、今は西東京市に住んでいる。荒川や多摩川といった立派な堤防道のある河川から離れているが、近くの2つの人工水路が格好の自転車での「散歩道」を提供している。

ひとつは玉川上水。1653年に急発展する江戸の水源として、多摩川の羽村に堰を作り、四谷大木戸(現在の四谷三丁目付近)まで43kmを開削してできた水路である。拝島付近から久我山付近の沿道は樹林帯になっていて、主要道路と交差する場所以外は信号がほとんど無い。羽村取水堰



(左) 玉川兄弟像、(右) 多摩湖自転車道

まで遡ると上水を築いた玉川庄右衛門・清右衛門兄弟の像が立っており、ここを起点に多摩川沿いを羽田の河口まで50km続くサイクリングロードが延びている。

もうひとつは多摩湖から世田谷の和田掘給水所を直

線に結ぶ水道である。多摩湖は正式には村山貯水池といい、隣接する埼玉県の狭山湖(山口貯水池)とともに昭和初期に完成した東京から最も近いダム湖である。湖の周回と武蔵野市関前までの水道上21kmが多摩湖自転車道として整備されており、昔の雑木林の面影を残す緑地が続いている。(上) きくや、(下) 満月うどん



そんな水路沿いの「散歩道」は私の週末のカロリー消費の道になっている。季節がよければ多摩川沿いや狭山の茶畑まで足を延ばす。問題なのは「武蔵野うどん」の店が一带に点在していることである。水利の限られた武蔵野台地は昔から小麦栽培が盛んで、独特のうどん文化が育まれてきた。讃岐うどんのようなツルツル系とは一線を画した、灰色のゴツゴツした野武士のような麺が特徴で、鯉だし強めの豚バラ入り熱汁で食べる「肉汁うどん」が代表的メニューである。東村山市の「きくや」、武蔵村山市の「満月うどん」など素朴な佇まいの店を訪ねているうち、最近では「サイクリングついでにうどん」というより、「うどん屋に行く手段が自転車」になってきている。

ペダルをいくら踏んでも一向に体重が減少しないのは、旨い肉汁うどんの所為である。(専務理事 日塔 貴昭)